

栗井地区タウンミーティング(要約)

テーマ：栗井地区のまちづくりについて

令和5年11月13日（月曜日）

【市長】 皆さん改めましてこんばんは。週の初めの月曜日ということで、何かとお忙しかったと思いますが、このようにお集まりをいただきまして誠にありがとうございます。本日の開催に当たりましては栗井公民館長さんを初め地域の役員の皆さんに大変お世話になりました。ありがとうございます。さて松山市のタウンミーティングですが、私が市長に就任をさせていただいた当初から始めています。松山市は、旧松山市、旧北条市、旧中島町、合わせて41地区になるのですが、まず市長の任期の1期目は、その41地区を二巡りさせていただきました。2期目からは、地区別のタウンミーティングに加えまして、世代別のタウンミーティング、例えば高校生世代や大学生・専門学校世代、また若手の社会人の方や子育て世代の方々、人生の先輩方に集まっていただく世代別のタウンミーティングを、また例えば農業分野の方々に集まっていただくのタウンミーティングですとか、商店街の方々に集まっていただくのタウンミーティング、またコロナで経済が影響を受けているときには、経済の実態をよく分かっている金融機関の方々に集まっていただくのタウンミーティングなどの職業別のタウンミーティングも開催しています。そして、3期目からはタウンミーティングに参加して、市役所の取り組みが分かってよかったという声を結構いただきますので、本日も広報タイムを二つ用意していますが、現地現場で業務に携わる市の職員から市民生活に役立つ情報をご紹介します。本日のタウンミーティングですが、数えて133回目になります。いただいたご意見に関しましては、できるだけこの場でお答えをして帰りますが、例えば国と関係をする案件や愛媛県と関係をする案件、また財政的によく考えなければいけないもの、そういう意見について、いい加減な返事をして帰るわけにはいきませんから、持ち帰らせていただいて、1カ月を目途に必ず返事をするという、聞きっぱなしにしない、やりっぱなしにしないというのが、松山市のタウンミーティングの特徴です。今日は、これからの栗井地区のまちづくりについて、有意義な意見交換をさせていただきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

【男性】 私、昨年度から児童クラブのお世話をさせていただいています。子育てに関する支援事業に非常に力を入れていらっしゃるということで、現在、児童プランが2つあり、1つ目は子どもの安全安心な居場所作りをテーマとしています。2つ目は、その子どもたちを見守る支援員の人材不足についてです。現状は、いろいろな地域の方にお声を掛けるんですが、支援員さんに対する待遇、福利厚生や時給などの課題があり、この課題について、子育て支援課などで支援員さんが入りやすいような勤務条件などを練っていただきたいのが一つです。もう一つは支援員さんの学校が長期休暇中の勤務についてです。例えば夏休みや冬休みの間で、朝7時半から夜7時までで子供たちを受け入れています。当然シフトによって

勤務しているわけですが、長期休暇中に教職員が一斉に休暇を取り、学校が使用できない期間がありますので、せめてその期間中は、児童クラブの方もお休みをさせていただけたらと思います。児童クラブは、共働きで大変な家庭は受け入れましょうというのが条件ですから、児童クラブを利用したいという方が1人2人でもいらっしゃれば、開けるという方針は分かるんですけど、松山市全体で学校が使用できない期間は児童クラブもお休みにしようじゃないかと決めていただければ、支援員さんにとってこれほど素晴らしい夏休みのプレゼントはありません。支援員さんも1つの家族を持っていますので、せめて学校が使用できない期間は児童クラブも休ませてもらったら、支援員さんの申し込みもあるんじゃないかと思います。子どもは地域の宝ですから、その子どもたちを守るためにも、支援員さんにもっと若手の方が入っていただけたらと思います。どうぞよろしくお考えください。

【こどもえがお課長】 児童クラブはご承知の通り、仕事などで保護者が家にいない児童が安心して過ごせる大切な居場所になっています。そのため児童クラブのお休みは日曜日や祝日、お盆期間、年末年始とさせていただきます。松山市では人手不足による負担を軽減して、仕事のやりがいを高めていくために児童クラブで働きたい人を増やす取り組みに力を入れています。賃金アップなどの処遇改善のほか、今年2月からは松山市のLINE公式アカウントや民間の子育て情報誌などで求人をして松山市の児童クラブ人材バンクに登録をいただいています。今後も運営委員会と連携をさせていただき支援員の皆さんの負担軽減に取り組みますので、引き続きご協力ご理解をいただければと思います。

【市長】 これはとても悩ましい問題で、皆さんよくニュースなどで人手不足と聞きますよね。ということは、仕事はあるんです。仕事はあるんだけど、人がいないという状況です。私は、東京などに出張することもあるのですが、東京では外国人の方にたくさん入ってもらおうという議論が出ています。多くの外国人の方が入ってこない、解決できないぐらいの状況です。今、国も、こども家庭庁を作って力を入れています。子どものことだけと思われるといけません。私達は、いずれ老います。子どもの数が少ないと、介護の担い手も少なくなるんですね。それと、子どもの数がどんどん減り、人口がどんどん減少していくので、物を作っても、どんどん買ってくれる人が少なくなるってことです。マーケットが小さくなる。他にもいろんな理由がありますが、「国全体として人口減少対策はしないといけません」ということです。私もできるだけ就任当初から子どもの医療費助成に取り組む、今は、皆さんのおかげで、入院についても通院についても高校3年生まで持つことができました。これから支援員さんの話に入りますが、支援員さんはなかなか確保できないんです。例えば定年退職されて、まだまだ元気だという方がいらっしゃるんで、そういう方々が、「よし、地域の子どものために支援員をしよう」と言っていただくと非常にありがたいんです。しかし、もちろんその方々にも人生があります。そのため、今運営委員会で話し合っ、どうしたら支援員さんが増えてくれるんだろうか、検討しています。確か、夏休みには子どもの面倒見たい、将来先生になりたいみたいな学生さんたちもいるので、学生さんたちの力を借りて松山大学さん、県、松山市で連携して休日子どもカレッジを大学で

やっているんです。これはすぐいっぱいになるぐらい結構好評です。夏休みは、そういう配慮をしながらやっているんですけど、支援員さんたちはなかなか確保できないという状況です。今、現状を教えていただいて、確かに支援員さんたちも、夏休みや冬休みに休めるために、どうしたら支援員を増やすことができるのかを、現地現場で真剣に皆さんと意見交換することが大事だと思います。これからも頭をひねります。どうしても仕事に行かなければならないので、子どもを預けなければならないご家庭もあります。非常に難しい悩ましいところですけども、松山市以外の他の市町もちょっと苦労しているところではありますので、何かいい方策を考えてみます。

【男性】 令和3年に高齢者等の避難を実効性のある避難支援とするために個別プランの作成が義務づけられました。それについての考えを言います。個別プラン作成の支援です。多様な避難行動要支援者の個別プランを作成する場合に、特性事項は重要な情報であって、聴取や申告だけで指定避難場所に避難しても、内容によっては避難対応が取れなく、再度の移送になった場合に、精神的、肉体的な負担も大きく、その避難場所に適した場所に避難するということが難しい状態で、市や支援センター、包括支援センターや医師など第三者の客観的なその意見や、その判断も必要だと思います。さらに近隣協力員には、地区や理解者ということで、なかなか成り手もない。更なるその共助の意識を啓発させることも必要ではないか。プランを作成するのは地区の担当者だけでは非常に難しい状態です。これは市の援助を受けて、その要支援者の意向が反映される個別プランにしていきたいです。

【保健福祉政策課長】 個別避難計画ですが、現在は、高齢者や障がい者の方で、災害などの避難時に支援が必要な方は、本人に同意をいただいている方は名簿の共有などをして個別のプランを作成しています。ご質問の個別避難計画は、既にご登録をいただいている方や今後対象になる方に対して、市からご希望などを調査し、個別避難計画を作成しているところです。

【男性】 施設事業所による避難支援ということで、今、支援サービスを地区で受けている要支援者もいます。風水害などで、長期の避難が必要な場合に、ショートステイとか長期ステイとかの形で、避難所に行かずに、自分たちが今利用している施設などに避難ができないかどうか。そのような形も取れるのではないだろうかと思っています。

【保健福祉政策課長】 先ほどの計画とも関係しますけれども、計画を立てていく段階で、支援していただける方の中で、地域の方以外にケアマネージャーさんとか介護のサービス事業者などから、ご意見を伺った上で、個別プランを作成します。基本的には災害の場合に介護が必要な方などが行くのが福祉避難所になるのですが、そこには、災害の状況に応じて、その施設を既にご利用されている利用者さんもいらっしゃいます。そういった人数等も勘案しながら災害対策本部の方で決めていくこととなります。直ちにその福祉施設等に行くと、他の必要な方が入れなくなる恐れがありますので、現在は、地域包括支援センターやケアマネージャーさんまたサービス提供者などから、意見を聞いたプランなどを参考に、

一旦は必要な避難所に避難をしていただく形を考えている状況です。

【男性】 うまくマッチングはできないんですかね。

【保健福祉政策課長】 個別避難計画は、必要なケアとか医療とか介護というのを考えた上で計画を作るんですけれども、災害がどういったところでどういう状況で起きるか予想ができません。災害が起きた段階で、その施設自体に既にご利用されている利用者さんもいらっしゃると思いますので、災害対策本部で、人数等も勘案しながら、避難先を直ちにお伝えをして、迅速に避難できる計画を立てることになると思います。

【市長】 今お答えをさせていただいたのが、保健福祉政策の担当です。高齢者福祉や障がい者福祉を専門的に行っている専門家です。本日、防災・危機管理課の担当も来ています。防災の担当、福祉の担当、もちろんしっかりと連携しています。私が就任してから、東日本大震災とか熊本地震とかありましたが、いつも「支援と備え」と言っています。東日本や熊本に行ってもらう場合は、支援に行くのと併せて、松山で同じことが起こったときの備えを考えるように言っています。東日本でどういうことが起きたか、熊本でどういうことが起きたかという事例は、全部捉えています。そういう中でしっかりと計画を立てていきます。私も防災士の1人です。防災に思いが熱くてとてもありがたく思います。やっぱり1人1人の意識が大事です。しっかりした避難に繋がるように、これからもしっかりと計画を立てていきたいと思っています。

【男性】 「住み続けたい魅力のあるまち」という表題が出ていますけれども、やっぱりポイントとしては、みんなが参加できるような魅力のあるコミュニティをたくさん作っていくことだと思います。栗井地区にもいろいろ魅力のある活動とかも含めて、コミュニティが存在していますけれども、私が今感じているのは、若者の世代とか、子どもの世代にいかにか継承していくかということがすごく大事だと考えています。いろんな地域活動などにコミュニティがあると思うんです。継承問題で言うと、私が個人的に栗井地区で伝統芸能の獅子舞保存会にも入ってまして、子どもの指導など通年行っています。そういった継承をしていくことが大事だと思う中で一つの問題ですけれども、今、時代的に練習や週末のイベント参加など、我々の子どもの時代と違って、今は子どもたちだけで参加するのが難しい時代になっています。つまり、小学生とか幼児とか、小さい子どもさんたちに参加してもらうためには、必ず親がついていかないといけないのです。送迎などを含めていろいろな問題があります。たくさん子どもたちに参加してほしいんですけれども、どうしても親の理解と協力がある環境にないと、コミュニティに参加できない問題があると考えています。その辺の何かうまく支援かサポートしていただけるような体制作りができないかと思っています。

【生涯学習政策課】 安全な中で、地域の活動に子供たちが参加して継承できないかということですが、栗井地区の公民館活動は、松山の中でも活発な地域だと思っています。伝統芸能も引き継いでいただいて、文化の継承とかという面でも非常にありがたく思っています。その中で、それを引き継いでいくためには、当然子どもたちが参加して、次に繋が

っていかないといけないのは、どこの地域でも課題だと思います。地域によっていろいろ安全面が心配だと思うんですけども、個人の活動の中で、その子どもたちが移動することで何か安全を保つのは、今考えるとすぐには思いつくところはないんです。しかし、公民館活動を地域の方々と一緒にやっていく中で、何かうまくできることがないかなと考えていきます。少し話は外れますが、通学の安全対策と合わせて見守り員の方も配置して力を入れていますので、地域の安全の向上に何かできないかということも今後も考えていきたいと思っています。

【市長】 これはもう、人と人の付き合いを重ねていくしかないかなと思うんです。やはり親と一緒にないと、というのはもう世間の流れだと思うんですよ。いろいろな犯罪が起きてしまって、子どもだけで行かせてしまって大丈夫なのかっていうのが、もうベースにできてしまったと思うんです。これはもう悲しいことだと申し上げます。そのため、日頃からできるだけ顔を合わせて、言葉を交わして、この人はこういう人だと安心してもらえると、子どもだけでも行かせることができるのかなと思います。これは全国どこでもいい案はなくて、できるだけ会って言葉を交わして、人付き合いを重ねていくしかない私は思っています。それと、宝くじのコミュニティ助成金という事業がありまして、例えば、地区でお神輿や獅子舞が古くなったので新調したいというのを、松山市に申請していただいたら、予算が国から来るんです。しかし、予算の枠があって、すぐに認められるわけではないんですけども、何年か経ったら認められる助成があります。また別の理由になりますけど、コロナでなかなか人が集みにくくなりましたけれども、コロナの回復によっては、また、皆さんがもうちょっと出てくるようになるのかなとも思います。それと、「どうやったら人が市長さん集まりやすいですか」と言われた場合には、防災の集まりをすると、比較的集まりやすいんだ、集まる度合いが高いんだというデータがあります。そのため、防災を切り口にすると比較的集まってもらいやすいのかなっていうのはあります。地区の運動会とか、なかなかすぐには集まらないかもしれないけど、そういう機会を捉えて、できるだけ人と人とが接するような機会を作ってもらうのが、特効薬はないですけども、方法だと思っています。

広報タイム① 住宅用火災警報器の設置と交換

【男性】 70歳以上の独居の高齢者情報を松山市からいただきたいということです。理由を3点言います。1点目は、今は地区からもらった情報で、70歳以上の独居の高齢者の方の見守りとか、粟井は結構、福祉サービスが充実していて、9月は商品券、10月はおはぎと赤飯、12・1・2月は弁当を独居の高齢者に配っています。でも、情報がなければ、行き届かないので、不公平をなくすためにも情報が必要です。2点目は、地区から独居の高齢者の情報をいただくようお願いしているんですけど、なかなかもらいにくくなっています。最近私の地区でも、今年5人、独居の高齢者の方が増えました。その方々はほとんど、お二人で住まわれている人のうち、どちらかが亡くなって独居になります。コロナで家族葬が増え

てしまったので、地区に情報がなかなか来ません。また、粟井地区は23地区あるんですけども、民生委員は11人しかいません。地区担当を私は2地区持っていますけれども、4地区持っている人もいますね。ということは、他地区の情報が民生委員の方になかなか入ってこないで、民生委員さんの協力で独居の高齢者の情報を得るのが非常に難しくなっています。3点目は、他の都市で、市から情報をもっている市がありました。今年の9月に、奈良市に民生児童委員会の研修に行ったんですけど、奈良市は70歳以上の独居高齢者の情報を市から出しているそうです。それをもらって、民生委員さんはいろんな福祉サービスをしているということが、松山市よりは若干少ない30万人ぐらいの都市ですが、できれば同じようにしてもらって、70歳以上の独居の方、今後も当然増えますから、そういう方に福祉サービスをきちんと活かせるようになると思います。何とか市から情報をいただきたいことをお願いします。

【保健福祉政策課長】 民生児童委員さんには、高齢者の見守り等で、大変お世話になっています。70歳以上の方の名簿についてですが、現時点では個人情報というようなところがございまして、松山市の方から氏名・住所等を提供するというのは難しい状況でございます。奈良市の方で実施されているということですので、一度持ち帰って検討させていただきます。おっしゃられましたように、これから高齢者増えますので、高齢者の安全安心に向けて取り組めることを検討していきたいと思えます。

【市長】 石井地区で、モデル的に何か動きがなかったでしょうか。

【保健福祉政策課長】 石井地区では、災害の避難時に必要な名簿の共有です。条例も含めて整備し、名簿管理をしていただくようなことを条件に、提供させていただいています。その辺も含めてご意見を検討させていただきます。

【市長】 常日頃からの独居老人の方の情報提供ということですね。奈良市の市長とは仲良しの市長ですので、どのようにしているのか勉強させていただきます。

【男性】 県道なので、役割分担が違うというのは重々認識をする中で申し上げたいと思えます。粟井小学校から北条南中学へ行く県道粟井浅海線です。ここの東側に歩道が設けられ、立派な県道になっています。この歩道の一部ですが、苞木あるいは高縄団地の児童が粟井小学校に通っています。一方、粟井小学校から東部の方、あるいは小学校から南部の方の中学生の生徒さんは、自転車とか、あるいは歩いて北条南中学へその歩道を通っています。そこで、粟井小学校の正門を出て、すぐ北側、ちょうど両サイドに常竹の池と久保の池に挟まれたところが、いろんな理由や条件があろうかと思えますけども、以前からずっと歩道が整備されずに残されています。この道は、小学生、中学生だけでなく、公民館中心に、JA えひめ中央の北条南支所があったり、粟井郵便局があったり、先ほど市の施設で紹介されましたが、安岡避難地横の北部福祉交流の家もあり、子供だけでなく大人の方も歩道を通られる方がたくさんいらっしゃると思えます。県道が整備されて、今、朝の8時前後、そして夕方の5時前後は非常に車が増えており、おそらく時速40キロの制限がありますけども、40キロ

で走っている人は少ない。そこで、安全安心がより高められるように役割の県道ということで、よろしくをお願いします。

【都市・交通計画課長】 ご意見をいただいた歩道は、二巡目のタウンミーティングでもご意見をいただいています。管理している愛媛県に歩道が未完成の場所があり、車との距離が近く、通学する児童生徒の方も危険であるという内容をお伝えしています。また、今年7月にはですね、公民館長さん、区長さん、あと PTA 会長さん、あとは警察や愛媛県、学校、教育委員会等が集まって、通学路の合同点検をさせていただきました。今回のタウンミーティング開催にあたり、進捗状況を愛媛県に伺ったところ、道路用地として必要な土地の取得に時間がかかっていたとのことですが、地元の方々の協力もあり、地権者の同意が得られたということで、令和6年度に常竹側から行っていた残りの歩道整備を再開し、山側に歩道の3.5m、道路に関しましては2.75m×2車線で、全体の道路の幅が10.25mということで、整備を計画しているということでお聞きしています。令和6年度から再開し完成には、1年程度かかると聞いていますので、しばらくお待ちいただけたらと思います。

【市長】 愛媛県さんの県道ですので、交渉させていただきました。これがタウンミーティングの一つの利点です。「タウンミーティングでご意見をいただいたんです」と愛媛県さんにお伝えをすとか、国にお伝えするというところで動かすこともできる事例でありますから、良かったと思います。どうぞ皆さん遠慮なく言ってください。皆さんから見て、どこが国道で、どこが県道で、どこが市道で、私道もありますし、農道もあります。国道11号とか33号とか196号、437号線もあるから分かりません。分かりにくいです。ですので、どうぞ、松山市に言っていただいたら、市の道路でしたら市で対応し、県の道路だと愛媛県さんに言いますし、国の道路だったら国の方に言いますので、遠慮なく言っていただいたらと思います。また、新しく今年4月から松山市、みち水路メンテナンス課を作って、例えば道路に穴が空いていたら、連絡してもらったら、すぐ担当課が対応します。今、市の公式LINEに穴などの写真撮ってもらって送ってもらったら、すぐに対応できる仕組みを作っていますので、遠慮なく言っていただいたらと思います。

【男性】 防災士の立場からお話させていただきます。河野と粟井の境に高山川があるんですね。その海側に樋門があります。平成30年の豪雨の時に、苞木地区と中須賀地区が水に浸かりました。床上浸水になった所もあります。それから、粟井駅より海側、さらに上の方の苞木側の農地に点在する家が浸かりました。その原因をいろんな方から聞いて調べました。構造がどうもフラット方式で、満潮時に大雨が流れてくると、外側に門扉あって、海水の排水の圧力で閉まる。川の流れが均等になって水が出ないと、本来はポンプが機能するわけです。ところがポンプも機能できなかったということですが、その他にも要因の一つとして、よく見ていただきますと、土砂と葦が繁茂しているわけです。それでよく見たら、樋門に葦が詰まっているんです。今後、ポンプの設備の機能充実と併せて、土砂と葦の撤去を、防災の立場で意見させていきました。

【都市・交通計画課長】 この苞木のポンプ場ですけれども、高山川の河口付近にあって、口径約 30 センチと約 50 センチの 2 台のポンプを、平成 5 年に設置しています。またポンプの取水口のスクリーンに溜まったゴミは、その都度撤去しています。今回私もちょっと現地を見させていただいたんですけれども、貯水池は約 1,500 平方メートルあります。ポンプの排水能力を超える雨水が流れてきた場合は溢れ出さないように一時的に水を溜める効果を期待できますが、おっしゃられたように土砂がたまると、その能力が低下します。そこで、今年 10 月に、まずは溜まっている土砂の量を確認するため樋門とポンプに繋がる水路の草刈りをさせていただきました。それで今の状況を確認させていただいて、今年度中に全ての土の撤去にはならないと思うんですけど、特に水路とポンプまで繋がる場所の土砂と草の撤去を予定していますので、今しばらくお待ちいただけたらと思います。

【市長】 北条では大雨で浸かったことがありますね。例えば北条駅の方です。ざっくりとした言い方になるんですけども、海のそばになりますので、潮の満ち引きと関係があります。土地の面と海の面がなだらかだと、なかなか排水しにくい特徴があります。北条北中の方に新開団地と言って、市の団地があったんですけど、だいぶ古くなってきているんですね。これを愛媛県と松山市の連携事業で、新しくマンションみたいな団地の工事をしています。せっかく大きな工事をするので、雨水貯留槽と言う雨水を溜めるプールを作ります。これ、事例がありまして、愛媛大学と赤十字病院のところの道は、昔はよく浸かっていたんです。社員の当時、道後樋又に会社がありましたから、大雨が降ったら撮りに行くよう報道のデスクが言っていました。それぐらい浸かっていたんですけど、今全く浸からなくなっているんですよ。なぜかという、東雲小学校も日赤も新しくなりましたが、実は、東雲小学校さんの土地って昔は大蔵省、今の財務省から借りていたんです。毎年お金出さないといけなかったんです、しかし、東雲小学校さんは、最盛期に比べると子どもの数が半分ぐらいになって、校舎や運動場も余るスペースができてきたので、最適化し、児童数に合った形にしようと、余った土地は国の方にお返ししました。その土地を日赤さんが購入して広げました。新しくなった東雲小学校は、校舎の上にプールが乗るという最新型になり、雨水貯留槽も下に設けて、歩道整備もさせていただいて、愛媛大学さんと日赤さんの間は全く浸からない綺麗な新しい道になったという形です。そういう形を今、新開団地の方でもやろうとしていますので、知恵と工夫を凝らしながらやっていきたいと思っています。

広報タイム②「家具転倒防止対策の必要性」

【男性】 何か所か見通しが悪い道路があって、カーブミラーを設置してもらえないですかと問い合わせをしたら、公道にはミラーみたいなのが設置できないので何か個人宅に設置してほしいみたいな感じのことを言われました。その場所は、絶妙なカーブになっていまして、自宅にはうまく設置できないんですよね。それ以外にも別の道路もあって、そこもちょっとカーブになっていまして、狭いし、交通量も割とあるので、カーブミラーを設置し

ていただかないと非常に危ないです。私も何回も事故寸前の出会い頭にあったこともあります。何かそういうところにミラーを設置していただけないものでしょうか。

【都市・交通計画課長】 カーブミラーの設置に関しては、今年度から、みち水路メンテナンス課が担当になっています。カーブミラーにはいろいろな基準があります。よろしければ、改めて再度ちょっと現地を見させてください。また、設置の基準がありますので、例えばなんですけど、どうしてもそのカーブミラーの設置が困難な場合、例えば道路の表示とか標識とか、違った面でそういった危ないような対策でできればと思います。場所と連絡先を教えてくださいましたらまた連絡させていただきます。

【女性】 栗井児童クラブの建物ですが、プレハブで建っています。私達は子どもの命も預かっていますので、プレハブの耐震強化に力を入れていただけたらと思っています。

【こどもえがお課長】 栗井児童クラブの耐震化ですけど、基本的には一応プレハブではありますが、一定の強度はあります。今後は、校舎などの老朽化が進んでいますので、建て替えであったり改修であったりするタイミングで、児童クラブを校舎内に取り込むとか、老朽化すれば建て替えるなどの方法で対応をさせていただきたいと思います。

【男性】 栗井駅のことです。栗井駅周辺はものすごい雑草が生えていて、参加申込書を出した後ぐらいに綺麗に刈っていただき非常に綺麗にはなったんですが、栗井駅は栗井地区の公共交通機関の玄関だと思っています。栗井地区は松山市の松山中心部のベッドタウンといえますか、居住の非常にあの環境の良いところです。そこの整備っていうことを含めて、駐輪場をきちんと使い勝手のいいように、やっぱり栗井地区の玄関である栗井駅を綺麗に見栄えのいいように整備していただければと思います。よろしくお願いします。

【都市・交通計画課長】 ご意見をいただいた JR 栗井駅を管理する JR 松山駅の方にお伝えしたところ、草刈の方はすぐにはしていただきました。また管理方法を JR の方に確認したんですけれども、駅構内や用地内の除草は、限られた人員で他の管理をしている駅と合わせて順次行っているということです。あと週 1 回から 2 回程度、構内やトイレ、ホームなど清掃の時に、先ほどの自転車が利用者に入付付近にあった場合は移動させていただいていると聞いています。また、「地域の皆さんには、栗井駅をご利用の際にマナーを守っていただくようよろしくお願いします」と、JR からは回答いただいています。駐輪場については、確かに他の駅と比べると北条駅に次いで栗井駅が多いということで、私も現地確認してもらったんですけど、実際、自転車がかなり多く置かれていました。ちょうど電車が停まったので見ていると、かなりの方が利用されているのを確認しました。駐輪場となるとですね、どうしても予算のこともありますので、持ち帰って、担当課とどういった整備ができるか検討させていただけたらと思いますので、よろしくお願いします。

【市長】 それでは、私からちょっとあつて欲しくはないんですけど命の危険もある有害鳥

獣対策として、イノシシのことを述べさせていただいたと思います。この間も、JR 松山駅の方のフジグランの方にサルが出ましたよね。あれはおそらく、松山大学とか愛媛大学の方にあの御幸寺山ってあるんですけど、御幸寺山とか道後の辺りはもう山続きですので、あっちの方から来たのではないかなと推測されています。イノシシも然りです。イノシシはこのあいだ石手寺さんの方で出たっていうのがありましたね。やっぱり近年、だいぶ山の方から動物が出てきているという状況があるんです。今松山市では、イノシシ、サル、鹿、ハクビシン、カラス、繰り返します、イノシシ、サル、鹿、ハクビシン、カラスについては、報奨金の対象として捕獲を強化して、被害を減らす取り組みを進めています。粟井地区でも、地元猟友会の皆さんのご尽力によって、令和4年度は240頭、そして令和5年度今年はずね、9月末までに103頭のイノシシが捕獲をされています。その他の対策として、被害を防止する電気柵などを購入する補助やわなや銃の狩猟免許を取得する補助などをしています。被害防止策の購入の補助は、農業を営む個人の方と団体が申請できます。松山市では、猟友会の方、農協、愛媛県など関係機関と力を合わせて、対策の充実や強化に取り組んでいます。また、粟井の山側になります客では、サルからの農作物被害を防ぐモンキードッグというのを、平成26年に1頭、令和元年に1頭の計2頭を導入しています。モンキードッグが繰り返し追い払うことで、猿を見たと聞くことが減っていると伺っていて、農作物の被害を防止する効果があると考えています。今後も導入前の犬の訓練費用や餌代など経費の一部を飼い主の方に助成して、導入しやすい環境作りを行っていきたくと思っています。以前、山手の地区のタウンミーティングだったんですけど、「市長イノシシが出てきたときは、鉞持とったら戦っていいんですか」って言われたんです。でも、戦わないでください。これ実際の私の経験なんですけど、イノシシはものすごい早いですよ、ものすごい勢いで塊がぶつかってきますので、これは会社員時代の取材の経験なんですけど、イノシシの牙は興奮したらこう出てくるんだそうです。ですから非常に攻撃をしやすいんだそうです。牙だけ取っている方がいらっしゃったんですけど、紙にイノシシの牙をさっさとやったら、すばっとナイフみたいに切れます。イノシシの高さからすると、太ももの辺りの高さになります。太ももの辺りは大事な血管が通っていますので出血多量になったりすることもあります。イノシシとかサルに出会ったら、興奮をさせないようにゆっくりと下がっていくっていうことが大事だと言われています。自分が鉞持っていても、絶対に戦わないようにしてください。このあいだのフジグランさんのときの映像にも出ていましたけども、松山市もお手伝いして警察や愛媛県さんたちと対応して捕獲するようになっていきます。どうぞご自身で対抗したりするようなことはないように気をつけていただけたらと思います。よろしくお願ひします。それでは締めのご挨拶をさせていただきます。今日月曜日でしたのに、このように夜間お集まりをいただきまして、誠にありがとうございました。今この仕事をさせていただいて、悩ましいと思うのは、コロナのことです。全世界がコロナに見舞われて、人の価値観とか集まり方がちょっと変わってきています。コロナが収まってある程度は戻ってくるんだと思うんですけども、価値観とか考え方とか、いろいろちょっと変わってきたなというのは

感じています。そして、人が集まりにくくなっているっていう状況はあります。それでも、やっぱり人が繋がっていくと、防犯上もいいことがある。防災上もいいことがあるので、繋がっていただきたいと思います。例えば、今まで高齢の方のサロンは10人以上集まっていたんですけど、ちょっと10人は集まりにくいよね、5人でどうだろうかということで、今緩和型のサロンを始めています。いろいろ知恵と工夫を凝らしながらやっているんですが、できるだけ、行政としても頑張ります。今日、消防職員に発表してもらいました。今消防職員が一生懸命に勤務中も走ったりしながらトレーニングしています。私達は、皆さんの安全安心を守るということが非常に大事な使命になりますので、いざというときには皆さんを助けに行きますけども、どうしても東日本とか、阪神大震災みたいな大きな災害が起こってしまったら、助けに行くにもどうしても時間がかかってしまうんです。なので、できたら各自皆さんで1週間分の備蓄をお願いします。水を備えてください。食料を備えてください。生活雑貨を備えてください。各自1週間分お願いします。行政でもしっかり備えます。行政として一生懸命やっていくんですけど、皆さんに準備していただく皆さんにお力添えいただくと、いろんなことが上手くいきます。市役所に言うたってどうせ一緒だと思わずに、私達は市民の皆さんの役に立つところで、市役所じゃなきゃいけないと思ってますんで、どうぞ敷居を高くなさらずに遠慮なく相談していただけたらと思います。こんなことできんかな、できますよっていうこともあるだろうし、こんなとこできるかなって言われたら、いや、ちょっとそういうやり方はできないんですけど、こういうやり方ができますよ、そういうことをお伝えすることもできますので、遠慮なく言っていただけたらと思います。今日、本当は言いたかったけど、言えなかったという方は市長へのわがまちメールもありますので、遠慮なく言っていただけたらと思います。今日は本当にありがとうございました。

—了—